

社  
SHA

楽  
RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する  
全国有数の〈社史コレクション〉を  
さらに活用していただくため、  
社史の使い方や、社史の楽しさ、  
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.85

2020/06

今号より、社楽を担当することになりました新人司書のHです。上司のTさんより「好きなもので書いてよし」とのお声をいただきましたので、今号は私が好きな、お酒にまつわる社史をご紹介します。

外出が難しい時期なので、社史を読みながら空想の日本「社史呑み」の旅にでかけてみます。それでは早速参りましょう。

○  
南国沖縄県へ降り立ちました。さて「とりあえずビール」です。沖縄県のビールといえば、言わずと知れたオリオンビール。昭和34年に、亜熱帯の気候では困難とされたビールの製造を成功させます。しかし

発売当初は輸入品が一等品で、オリオンビールは県民から二級品と見られていました。その意識を変えるべく「政府の要人や企業の経営者らが集う沖縄社交街の殿堂」であり、当時「桜坂を制するものは沖縄を制する」と言われていた那覇市の桜坂でローラー作戦が実行されました。「具志堅社長を筆頭に社員が1軒ずつ回って販促活動を実施。一晩で10軒以上もはしごするなど、命がけの大海戦術で売上げを伸ばした」そうです。創業60周年を記念して刊行された『Orion Beer book』（2018年刊行）から紹介しました。

すっかり南国気分になったところで、九州は大分県へ参ります。清酒や焼酎などを造る八鹿酒造から『八鹿物語』（1989年刊行）の紹介です。

正方形で手に取りやすい分量。写真を効果的に使った一冊目に続き、創業150周年を記念した『八鹿物語 其の2』（2014年刊行）も刊行されています。社名の由来は、廃業中の酒造業を再興した3代目当主麻生観八と、当時の杜氏である仲摩鹿太郎の名を記念したもの。

麻生家当主は創業時より地元のインフラ整備に尽力しました。社名の由来となった観八は、電気・鉄道などの整備を実現します。観八が敷設した鉄道の廃線後、使用されなくなったトンネルを焼酎の貯蔵庫としたという「琥珀のトンネル」の項は、「先祖たちが通した鉄道のトンネルの中

（裏面へ続く）

# 社史呑み

# 西日本編

(表面から続く)

で、今静かに、「琥珀」が眠る。よく、熟成中に樽の中で製造量が目減りすることを「天使の取り分」と呼ぶが、その数滴でもいい、先祖たちのもとへ届いてほしいと、子孫たちは思うのである。」と結びれます。随所に地元を大切にする姿勢がうかがえる、温かみのある2冊です。

○  
そろそろお腹がすきました。空腹にお酒ばかり入れてもよくありません。ここでぴったりな社史が、広島県呉市で日本酒などをつくる三宅本店の『MIYAKEHON TEN 160 YEAR SEMPUKU 100 YEAR』(2017年刊行)。地元呉市の街並みの中にある、日本酒「千福」の写真を効果的に用いた、A3サイズの大型社史です。特に地元を感じさせるのは「万福ノ口福。」という文章。海軍の街呉ならではの、東郷平八郎と肉じゃがの由来やうどんの流儀、名物フライケーキを紹介した後に行、「呉のうまいものには、笑顔と千福がよく似合う。」と結びます。文章もページ数も少ないながら、ただ「吞みたい」ではなく「行つて吞みたい」と思わせる魅力のある社史です。

○  
かえってお腹がすいてしまいましたね。続いては約半世紀、紀州の梅で梅酒をつくるチョーヤ梅酒の『チョーヤ梅酒造り50年のあゆみ』(2009年刊行)の紹介です。大正3年の創業から45年の間葡萄酒を主に扱います

が、「世界を見渡すと葡萄酒は各地でできる、このまま葡萄酒だけに頼ることは危険だ。日本でしかできないものを造れ!」という創業者金銅住太郎の考えのもと、昭和34年に梅酒造りが始まります。大阪府に拠点を置くチョーヤにとって「隣接する和歌山県は当時全国一の梅の産地であった。品質の良い紀州梅が山を越えればすぐそこにある。」というのも梅酒産業に乗り出すきっかけの一つだったそう。「産農一体」を掲げるチョーヤの姿勢は、「産地が丸となり、梅一筋のみなべにとつて一番ありがたいことは、チョーヤさんが50年間、ずっと国産の梅を使用されていることです。このことは、地元の生産者の、信頼も期待も大きい。」と語るみなべ町元町長の言葉にも表れています。

○  
いかがでしたでしょうか。社史を使えば、このように空想の世界で旅を楽しむこともできます。

ここで紹介した社史はごく一部なので、再開館時にはぜひ当館の社史コーナーで空想旅行をお楽しみください。

酒造メーカーの社史のご寄贈も、随時お待ちしております。

※なお、社史は貴重な資料ですので、実際に飲食をしながらのご利用はお控えくださいようお願い申し上げます。

(企画情報課 堀田)

●問合せ先 神奈川県立川崎図書館 企画情報課

213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟2F

電話：044-299-7826 FAX：044-322-8878

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>